【本郷中学校　校是】　ともに学び　ともに考え　ともに生きる

ほぼ週刊 輝けとわに 第361号

2024.4.15
〒247-0005　横浜市栄区桂町84-14　TEL：892-2155　FAX：892-9241　横浜市立本郷中学校
ホームページ　https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/hongo/　校　長　湊　浩一

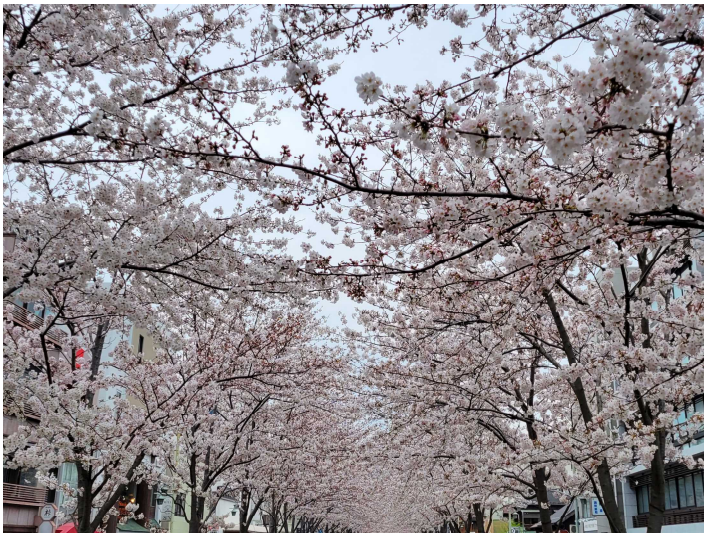
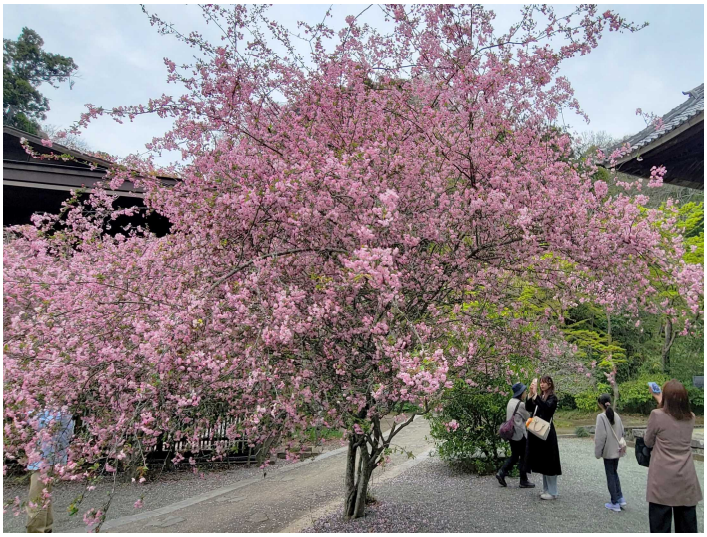
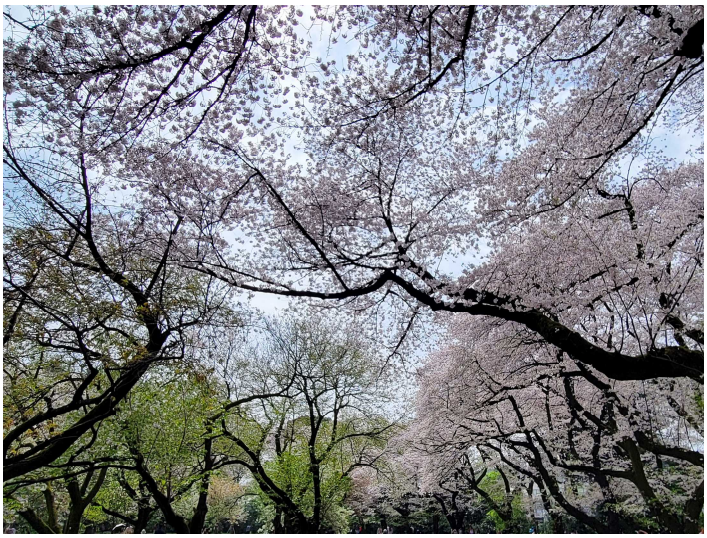
【学校教育目標】　自ら学び　ひととつながり　しなやかに未来を拓く人
【学校スローガン】　あ（挨拶）　せ（清掃）　か（感謝）　け（けじめ）

海　棠

校　長　湊　浩一

桜の花が綺麗に咲いています。でも、この季節で好きな花木を問われたら、躊躇なく「海棠」と答えるでしょう。なかでも、鎌倉比企谷の妙本寺にある海棠は、それは見事な銘木です。そして、日本で一番知られた海棠かもしれません。なぜかというと、８年間絶交していた評論家の小林秀雄と詩人の中原中也が、この木の下で再会したからです。といえ、ふたりの名前を聞いてもピンと来る人は少ないでしょう。小林は日本を代表する評論家です。そして、我々にとっては大学入試に立ち塞がる難攻不落の要塞でした。なぜかというと、彼は頭が抜群によく、一度に考えられる量がずば抜けていました。そのため、一文が長くなり難解な文章になります。私見ですが、小林は大評論家だと思いますが、文章は悪文です。にもかかわらず、彼の知性（本）を前にすると、ただただ恐れ入っている自分がいます。一方、神童と呼ばれた中原中也はわずか30歳で夭折しますが、350篇以上の詩を残しています。それらは、『山羊の歌』や『在りし日の歌』で読むことができます。「思えば遠くへ来たもんだ／十二の冬のあのタベ／港の空に鳴り響いた／汽笛の湯気は今いずこ」の『頑是ない歌』や、「汚れちまった悲しみに／今日も小雪が降りかかる／汚れちまった悲しみに／今日も風さえ吹きすぎる」の『汚れちまった悲しみに･･･』などが有名です。これらを前にして陳腐な言葉しか浮かばないのですが、やはり「天才」でした。

こんなふたりがなぜ絶交したかというと、女優・長谷川泰子をめぐる三角関係が理由でした。日本を代表する評論家と詩人がこんなことで絶交してしまうんですね。ここらの経緯は、小林の「Ｘへの手紙」を読むといいかもしれません。話を戻します。昭和12年の春、絶交状態だった中原が８年ぶりに鎌倉扇ヶ谷の小林宅を訪ねてきました。彼は2ヶ月程前に、同じ扇ヶ谷寿福寺境内に移り住んでいました。そこで、ふたりは散歩がてら妙本寺の海棠を見に行きました。晩春の暮方、ふたりは石に腰掛け、海棠が散るのを黙って見ていたそうです。そのときの海棠は枯れてしまいましたが、今は３代目の海棠が境内にあります。こんな見事な海棠の花は見たことがありません。小林も中原も同じような海棠を見たのでしょう。この後、鶴岡八幡宮の茶店でビールを飲んで分かれます。そして、中原は半年後の10月22日、清川病院で短い一生を終えました。

妙本寺の境内に腰掛け真っ盛りの海棠の花を見ながら、ふたりのことを考えました。残念ですが、小林秀雄も中原中也も少しずつ忘れ去られていくのでしょう。日本中の受験生たちがあれだけ苦しめられた、小林の文章が消えていくのは不思議な気がします。また、ノーベール文学賞の川端康成も大江健三郎の本も見かけなくなりました。おそらく、文科省が求める国語力が文学的なものから実用的なものにシフトしたことが要因なのでしょう。最初の共通一次と最後のセンター入試に小林の文章を採用したのは、文科省の意地だったのかもしれません。咲き誇る海棠の花を見ながら、そんなことを考えていました。なぜだか無性にビールが呑みたくなりました。

※学校ＨＰでは、１段：段葛　２段：妙本寺　３段：新宿御苑　４段：皇居　の写真が見られます。